ZOOM UP!

ズームアップ! 組合の魅力発見

Vol.26

浅麓工業企業組合

53年の歴史を持つ企業組合

浅麓工業企業組合　外観

浅麓工業企業組合は、昭和45年に設立されました。現在の職員数は25名となっています。当時の希少な資料によると、し尿収集運搬業務はもともと小諸市の業務であり、民間企業へ委託する方針になった際、担当していた小諸市の職員数名により企業組合を立ち上げられ、現在の事業運営に至ります。施設管理部、第１収集業務部、第２収集業務部の３つの部署があり、それぞれ浄化槽の保守点検、農業集落排水処理施設の保守点検、トイレの汲み取り、浄化槽の汚泥の収集、事業所のグリストラップ（油脂分離槽）の清掃、一般廃棄物収集運搬、事業系一般廃棄物、産業廃棄物収集運搬等の業務を行っています。

住民の「当たり前」を守る仕事

収集運搬車両

当組合の業務は公共性がとても高いため、日々の仕事を止めることができません。特に一般廃棄物収集運搬は、市のごみ収集カレンダーに準じて住民の方々がごみ捨てを行うため、組合もカレンダー通り、曜日をずらすことなく収集を実施します。

他の業務が立て込んだときは優先順位を定め、廃棄物収集とし尿収集は最優先で取り組むような体制を築いています。そのためコロナが流行し始めた頃は、ほかの業界以上に予防や感染対策を行う必要があり、緊張感が張り詰めていました。比較的落ち着いてきた現在も職員全員が気を引き締め、住民の方々に迷惑がかからないよう心掛けています。

「サービス業」であることを意識する

「一昔前のこの業界のイメージは、とてもじゃないが良いとは言えませんでした」。桜庭理事長はこのように昔を振り返りました。原因のひとつとして、当時は業界内に住民の方々との良好な関係を築くという意識が少なかったことが挙げられます。そのことに桜庭理事長は作業員として働いていたころから違和感をもっていました。

イベント会場のごみ管理

「必要とされることにあぐらをかかない。やってあげているという意識ではなく、サービス業として『お客様』を意識した『接客態度』を心がけるように」この言葉は理事長に就任した時から常々職員へ伝えています。最近では住民の方々から、若手職員の挨拶や対応が気持ちいいと評判も寄せられ、イメージが変わってきた実感があります。

先進的な取り組みは職員のやる気が原動力

ここ数年はホームページの運営、SDGsの登録、車両に地元小学生の描いた絵を貼る、市のイベントに車両を展示しイベント終了後にごみの収集を行う等、新たな取り組みに力を入れています。同業他社からも参考にさせてもらったという話もあり、業界に浸透しつつあります。今後は不動産会社との連携による新たなサービスや、高齢者のごみ出し問題を解決するための協議等、これまでにない取り組みを積極的に行う予定です。また、このような取り組みのアイディアは職員からの発信が多く、このことについて桜庭理事長は、「職員の意見は基本的に否定しない。やらせてみて何かあれば責任を取るのが私の仕事です」と語り、意見が否定されないことは組合内の雰囲気が良くなる要因にもつながるとも分析します。他社では高齢者の割合が多い中、職員の平均年齢が43歳と非常に若くパワフルなのは、若い職員が胸を張って知り合いに紹介できる職場であることを示しています。今後も組合内の環境を良くしていき、住民サービスにも波及させていけるよう努めてまいります。

働く車展示会　出展

理 事 長：桜庭 哲也
設　　立：昭和45年
T　E　L：0267-22-1322
住　　所：小諸市甲1843-3

桜庭理事長

当組合の車両は緑色が目印です。小諸市内で見かけたら手を振ってみてください。また、ごみ減量のアドバイザー派遣も行っています。急な引っ越し、別荘の掃除等、可能な限りではございますが、お困りごとは浅麓工業企業組合までご連絡ください。